

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>○個々のキャリアの発達を促し、新たな教育課程の編成の検討とともに、実施に向けて履修や選択に役立つ教育計画を生徒に示し、学びやすく、個に応じたオープンなカリキュラムを編成する。</p> <p>○「真の学力」の伸長のための授業改善に取り組む。</p>	<p>①新教育課程の完成年度に向けて再検証するとともに、個に応じた科目選択に対する効果的な履修指導を実施する。</p> <p>②ICT機器を効果的に活用した授業改善を組織的に行い、主体的に学ぶ姿勢を培い、家庭学習を習慣化させて基礎学力定着を図る。</p>	<p>①新指導要領にもとづく教育課程の完成に向け、各関係部署が連携し、生徒の希望を活かせるような時間割を作成するとともに、生徒の進路実現に向けた履修指導をおこなう。</p> <p>②生徒のニーズに合わせて指導方法や教材を工夫し、生徒が主体的に学ぶことができるよう授業改善を進める。また、これを推進するため、ICT機器の効果的な活用方法や、生徒の主体性を培う授業づくりについての研修会を開催する。 ・スタディサポートを活用し、学校や家庭での学習・生活習慣の確立に努める。</p>	<p>①生徒の希望を受け入れられるような時間割を作成することができたか。 ・各部署が連携して、適切な履修指導をおこなうことができたか。</p> <p>②授業アンケートの結果や研修での学びを生かし、指導方法や教材を工夫することができたか。生徒の学習意欲を高め、主体性を育む授業づくりの参考になるような研修会を定期的に実施することができたか。 ・スタディサポートレポートを面談等で活用し、学びの支援ができたか。</p>	<p>①教科・系列と連携し、効率的な講座の配置を検討し、生徒の希望に沿う時間割作成に努めた。</p> <p>②ICT機器を効果的に活用し、また生徒の主体的活動を多く取り入れ他者と協働し互いを尊重する姿勢を身につけさせることができた。また、生徒のニーズに合わせて指導方法や教材を工夫した。 ・スタディサポートの活用を促した。</p>	<p>①新学習要領に基づき、生徒の希望がより反映できるよう関係部署と連携し、時間割の作成や履修指導に努める。</p> <p>②生涯教育を意識した授業内容を探求する。他者との協働をさらに活発にし、他者の考えを取り入れ自らの考えを深められる機会を増やしていく。 ・外部教材の効果を引き出す具体的な取り組みを考え、基礎力の定着に結び付ける必要がある。</p>	<p>①個々のキャリアの発達を促すため、生徒の希望に沿う時間割作成に努めたことは素晴らしいと思う。</p> <p>②生徒が自身の“学び方”を自ら工夫・改善できるように意識づけする事が、生涯学習への意識づけや外部教材の効果的な活用にも関わってくると思う。授業改善は一筋縄ではいかないと思うが、基礎学力の定着に結び付くよう引き続き取り組みを進めてほしい。 ・スタディサポートの効果測定はどのようにしているのを知りたい。</p>	<p>①可能な限り生徒の希望に沿う時間割の作成を実現したが、希望者が多数いる講座の調整方法に課題が残った。 ②年2回の研修会を通して、教科指導に効果的なICT活用方法等を共有することができたが、ニーズに応じた研修という点では課題が残った。</p>	<p>①来年度は新教育課程の完成年度であり科目の整備の成果が見られると考えられる。また体育館の耐震工事が実施される影響を最小限にするよう工夫してほしい。 ②研修会のテーマ設定や研修方法等を検討することで、職員のニーズに沿った研修会を期待したい。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>○生徒の主体的な活動による学校行事や生徒会活動等を通し、生徒がお互いを尊重し、協働する姿勢を身に付けさせて、リーダー性を育てる。</p> <p>○生徒の多様性を踏まえた支援体制の充実を図り、併せて、規範意識を高め、SDGsを活用し、本校生徒としての意識を高める。</p>	<p>①学校行事や委員会活動、部活動などの活動内容を精選・改善し、生徒の主体性、協働性を高める。</p> <p>②校内の教育相談体制を充実させて、多様な生徒に応じた相談活動を展開する。</p> <p>③生徒の規範意識の向上を意識した日常の生活指導を実施する。</p>	<p>①生徒一人ひとりが自らの役割を考え、主体的に動くことができる環境を整える。また、生徒の主体性や協働性を高められるよう、生徒の意見も取り入れながら、学校行事や委員会活動、部活動などの活動内容の見直しをおこなう。</p> <p>②スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置拡大を受け、教育相談担当教員との連携体制を確立させ、教育相談を充実させる。また、教員間の情報共有を積極的に行い、保護者との連携を迅速に行う。</p> <p>③生徒が、日常の挨拶や時間厳守等の基本的なマナー、社会性を身につけられるよう支援する。 ・生徒の規範意識向上に向けた指導をより効果的に行うことができるよう、教職員間の共通認識を確かなものとする。</p>	<p>①生徒一人ひとりが学校行事や委員会活動、部活動の活動内容を振り返ったときに、満足のいく活動ができたと感じることができたか。生徒主体の学校行事・部活動の運営により、学校生活の活性化がはかれたか。</p> <p>②スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーとの連携体制を整備し、十分に生徒・保護者の相談に対応して、相談件数が増えたか。</p> <p>③生徒が基本的な生活習慣を身に付け、社会的なルールやマナー向上が定着したか。 ・あいさつ運動や頭髪、服装規定等が適切で明快なものとなるよう検証し、必要に応じて改善することができたか。</p>	<p>①体育祭や文化祭では生徒会や委員会が主体となって動くような体制を整えた。3年次生は、行事や部活動でリーダーシップを発揮し、学校全体の生徒活動を活性化させた。</p> <p>②スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置増を有効に活用し、専門的な知見を加えた対応や指導をすることができた。また、定期的に生徒の情報共有をした。</p> <p>③集会や学級指導を通じ規範意識の育成やルールの周知をした。個人差はあるが多くの生徒が基本的な生活習慣や社会性を身につけた。</p>	<p>①引き続き学校行事で生徒がリーダーシップを発揮できる環境を整える。</p> <p>②「かながわ子どもサポートドッグ」を有効活用するための具体的な方法を検討する必要がある。</p> <p>③ルールを守ることの意義を理解させ、年次だけでなく全教員が共通意識を持って指導する体制づくりが必要である。</p>	<p>①教師が生徒に寄り添う姿勢、出来ると楽しい・うれしい経験、一丸となった時の経験、ほめる文化、仲間意識など、生徒の意識改革と併せて教師の意識改革も必要かもしれない。 ・文化祭や各種行事、部活動では、生徒が主体的に取り組む様子が見られた。生徒主体で行事を実施しており、様々な価値観を認め合う風土があると感じている。学校行事等を活用し、リーダーシップを発揮できる環境を整えていることは評価できるが、一方でSDGsを活用した取り組みの具体例が示されていないようであるので、示していただきたい。 ③挨拶は生徒が自主的に行っており素晴らしい習慣と思う。 ・リーダーシップの育成と規範意識の育成の両方を追求する方策として、他校でも試みられているルールメイキングの取り組みも、今後は検討されると良いと思う。</p>	<p>①生徒主体の学校行事を生徒会役員及び委員会を中心に企画運営し、実践することができたがコロナ禍で行事の指導体制の確立が難しい部分もあった。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと養護教諭、教育相談コーディネーターの連携により、支援体制を充実させた。 ③学校全体で生徒の規範意識の向上やそれに基づく行動をとれるように指導に取組んでいる。</p>	<p>①生徒会及び委員会の更なる活性化を図り、主体的に行事を行えるような体制を教員とともに進めていくことを期待する。 ②一部の熟練した教員の尽力だけでなく、教育相談コーディネーター研修等の機会の確保や教員の意識の醸成も重要になってくると思われる。 ③多くの生徒が規範を理解し、一定数がそれに基づく行動をできるが、挨拶や登下校時のマナーなどは職員の共通理解のもの統一した指導を引き続き、行っていく必要がある。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月29日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	○総合学科のガイダンス機能を活用し、生徒の主体的な進路選択を支援・指導できる進路指導体制の充実を図る。  ○学校外の教育力を活用して「課題解決能力」や「コミュニケーション能力」を育み、キャリア発達を促す。	①「ガイダンス」の授業を中心に、個に応じたキャリア教育を行い、将来の職業観を構築すると共に、職員の進路支援力を向上させ、学校全体で進路支援・指導を展開する。 ②総合学科高校の強みを活かし、学校外の教育力を活用して高校卒業後の目標設定・達成に向けた意識づくりの機会を設ける。	①・「ガイダンス」の授業で、職業観や自己実現あるいは進路選択を支援するプログラムを計画する。 ・生徒一人ひとりが主体的に進路選択を行うことができるよう、生徒の個性に応じた進路指導や進路相談を実施する。  ②他の総合学科高校や上級学校と連携して、学校外で学ぶことができる機会を生徒に提供し、生徒の学ぶ意識・探究心を向上させる。	①・生徒の興味・関心を引き出すとともに、生徒の職業観を育成し、進路実現につなげられるような授業を計画・実行できたか。 ・履修や進路について十分な相談の機会を設けたか。また、生徒一人ひとりの希望を叶えるために適切な支援ができたか。  ②学校外での学びについて生徒に周知し、講座の受講者数が増加したか。生徒の学ぶ意識・探究心が向上したか。	①「産業社会と人間」で自己実現に向けた意欲を養うことができた。研修旅行をガイダンスと関連付け生徒の探究活動を実施した。課題研究の成果が進路実現につながった。また、面談や履修ハンドブックの活用で進路を考えた履修指導ができた。 ②夏季連携講座等、学校外の学びを生徒に周知して多くの生徒が受講した。2年次ではフロンティアやプレ課題研究で多くの外部機関とやり取りを通し学習の幅が広がった。	①自己実現への意欲が低い生徒へのアプローチの仕方を改善する。実施方法や評価においてガイダンスグループと年次の連携に課題が残った。  ②他の総合学科高校や上級学校との連携を強め、生徒が学校外で学ぶ機会をさらに増やしていきたい。告知から申込み締め切りまでの時間が短いので、校外連携部会と連携して告知を早くしていく必要がある。	①・主体性を育み、他者と協働し互いを尊重する姿勢を涵養することは、キャリア教育の本質であり、このような取組が出来た点は評価したい。 ・上級学校で行う「キャリア理論の授業」を外部の力を借りながら高校1年生から取り組むと、生徒の行動が変わり、課題研究・探究学習の質が向上すると思われる。 ②上級学校や企業と連携し、生徒がワクワクする学外での学びを引き続き拡充して欲しい。委員としても、そのような学びの場を考え、提案したい。また、生徒にそれらの学びの機会をもっと活用するように勧め、世間と己を知るチャンスとしてほしい。	①ガイダンスの授業を中心にキャリア教育を行い、職業観を養った。また教員の進路の知識の向上を図り、相談体制を徹底し、進路実現を推進したことは大きな成果である。 ②学校外の機関への訪問等を徹底し、「課題解決能力」を育んだ。	①本校の要であるガイダンスの共通理解を図りながら、良いものは継承しつつ改善を図って、時代に即した形に少しずつ変えていくことを期待している。 ②学校の外に出すことで生徒たちに揺さぶりをかけ、進路意識向上のきっかけとなるプログラムを再構築していく。
4	地域等との協働	○地域や保護者との連携を推進し、開かれた学校づくりを進め、本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動を推進する。  ○防災意識を高め、本校のSDGs(防災)の体制づくりに取り組む。	①本校の教育活動をリアルタイムでHP等を更新して、広報活動を充実させ本校の魅力を発信する。 ②地域の行事に積極的に参加し学校の魅力をアピールして、開かれた学校づくりを推進する。  ③本校の防災体制を整備して生徒たちの防災意識を高める訓練を実施する。また地域との防災連携を強化する。	①学校説明会や中学校訪問、文化祭やオープンスクールなどを通じて充実した広報活動を実施し、ホームページや掲示板の内容を充実させる。  ②学校運営協議会委員の提言を生かして地域連携を進め、近隣の学校や団体と積極的に交流し、学校の魅力を発信していく。また、公開授業等を通して地域の方々に学校の様子を知っていただく機会を設ける。  ③防災計画の具体化、防災訓練の実施等で防災意識を高める。また、地域との防災連携を拡充させる。	①来校者数や来校時のアンケート結果の集約、ホームページの内容更新と更新の回数状況。  ②学校運営協議会委員の提言を生かして地域連携を進め、近隣の学校や団体との交流を通して、学校の魅力を発信することができたか。地域の方々が来校できる機会を増やし、地域の学校としての認知度を高めることができたか。 ③防災計画の具体化や更新状況。備蓄品の補充。防災訓練の実施状況。防災に関わる地域との連携状況。	①学校説明会を3回実施し多数の来場者を迎え、中学校の訪問及び来校を15回行い、広報活動が充実した。 ②学校運営協議会委員から様々な提言をいただき、教育活動に生かしている。委員の方にICTの教員研修をしていただいた。一方、公開講座を開催したが、参加者が集まらなかった。  ③地震・津波を想定して防災訓練を2度実施した。地域との連携として、福祉施設の避難訓練を本校で行った。	①学校行事等が平常に戻りつつあるため、より地域や中学校へ広報活動を充実させ本校の魅力を発信する必要がある。 ②引き続き学校運営協議会委員の提言を教育活動に生かしていく。公開授業については、開催の意義や必要性を検討していきたい。  ③生徒だけではなく、地域の災害拠点の一つとしても役割が果たせるだけの備蓄や防災マニュアルが必要である。	①オープンスクールには多数の中学生が来校していたので、広報活動の努力が実を結んだものと思う。ホームページも適宜更新されており、これからは本校の魅力を発信してほしい。 ②・教員向けICT研修は業務の効率化、教育の質向上に不可欠である。次年度以降は、課題別やICTの習熟度別に対象者やプログラムの内容を分けても良いと考える。 ・公開講座に関しては、オープンスクール等の休日行事のある日に合わせて行う等の工夫を試みても良いと思う。 ③地域との防災連携の強化・拡充の取り組みは、本校の立地上非常に重要である。地域の災害拠点の一つとして地域住民が集い懇談する機会があると良い。	①公私合同説明会、学校説明会等の広報活動や学校行事やオープンスクール等をHP等で、地域や保護者に対して学校の魅力をアピールし教育活動を発信したがりアルタイムの発信に課題があった。 ②地域の行事等に積極的に部活動等の生徒を参加させて、学校の魅力を発信することができた ③地域との連携を進め、防災に対する意識の向上と訓練を実施した。	①引き続き、教育活動の情報発信をしていくとともに、HPによるリアルタイムの発信を充実させていく。 ②近隣地区である並木や富岡の行事はもちろんコミュニティFMとの連携を通してさらに魅力発信の充実を期待したい。 ③学校運営協議会を利用して近隣施設と生徒との協働による取組を企画して防災意識を高揚を図ることを期待したい。
5	学校管理 学校運営	○安全・安心な学校づくりを推進する。  ○総合学科として、社会の変化に迅速に対応できる学校運営組織の構築に取り組む。	①効果的な研修会を実施して、事故不祥事を未然に防ぐ体制をつくる。 ②Teamsの効果的な活用や業務の見直しから働き方改革を進め、生徒と関わる時間を増やすべく業務のスリム化を推進する。	①不祥事ゼロプログラムを定め、定期的に研修会を実施し、事故防止に向けた啓発活動をおこなう。  ②Teamsを効果的に活用するなどして、業務の効率化を図る。また、業務の在り方について、抜本的な見直しをおこなう。	①事故・不祥事を未然に防ぐため、定期的に研修会を実施し、職員の意識を向上させることができたか。 ②業務の見直し、効率化を進めることができたか。生徒と関わる時間を増やすことができたか。	①不祥事ゼロプログラムを定め、定期的に研修会の機会を設け、職員の意識向上に努めた。私費の執行や事故防止に関する研修会を行い、スムーズに処理することができた。 ②勤務整理簿や長期休業中の予定表を廃止して、Teamsで管理することができた。	①不祥事ゼロプログラムを通し、引き続き職員の意識向上に努めていく。また、定期的に私費執行に関する事故防止等の研修会を計画する必要がある。 ②今後はチャネル等を活用してメンバー間で情報共有することで、打合せの回数等の減らして時間短縮を図り、業務のスリム化を推進したい。	①達成状況等については申し分ないが、事故不祥事は一瞬の隙に起こりうる。記載の通り常日頃から意識し、かつ意識の醸成を図って頂きたい。また、万が一、事故不祥事が起きてしまった場合の想定をしておくことも大切と思う。 ②教員の心にゆとりが出来れば、それが健全な学校運営につながると考える。業務の見直し・効率化に向け具体的な成果が示せるような取組を進めてほしい。	①今年度も事故はなかったが自分事になるような研修会を実施していくとともに風通しの良い職場を目指していく。 ②Teamsを活用して業務のスリム化を少しずつ進めたが、さらに働き方を意識させる。	①常日頃からお互いが意識して業務できるような職場環境づくりを目指していく必要がある。 ②他校や外部機関との実践例などを参考に働き方がいのある職場づくりを目指していく。

